

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000703		
法人名	有限会社 児玉商事		
事業所名	グループホーム 陽		
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字上富田2934－1		
自己評価作成日	令和4年9月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内
訪問調査日	令和4年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①年間計画を 作成しています。毎月の外食、ドライブ等 地域との交流を積極的に行っていましたがコロナ感染症の為に中止していました。それで、施設内での過ごし方として 利用者様が 楽しく過ごして頂けるように新たに 行事を増やして、/月に一度 地域のお弁当店へ注文/季節によって シロップづくり /家事援助他 利用者様と共有をしながら楽しんで頂けるようにいつも 心掛けています。② 各利用者様の 手作りケーキを 職員が日頃の御礼を 込めてづくり全員でお祝いをしており、皆さんで食している また職員からの手作りメッセージカードを渡しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設全体が木造づくりになっており、居室横にはウッドデッキが設置され、心地よい風も体感できる設備になっている。また、ウッドデッキは緊急避難の際の通り道ともなっている。庭を挟んだ場所にデイサービスがあり、デイサービスの2階が避難場所となっている。デイサービス利用者との交流も庭からの出入りできるようになっている。1ユニット体制の中、入居者と真摯に向き合おうとする姿勢が見られ、管理者を筆頭に職員全員で努力している様子がある。施設を出たところに国道があり、工場の隣接もあることから外出した際のリスクが大きく、細やかな神経が払われている。入居者が集うホール内は閉塞感はなく笑顔が多くみられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様と介護者が 共に寄り添い共感し安心して頂けるように理念を作成しております毎朝 申し送り時間に全員で唱和し意識を高めて取り組んでいます。	3年前に作られた介護理念を、毎朝、職員間で唱和し、理念の浸透に務めている。経年の間で職員の入れ替わりもあるため、内容をより充実したものに再構築したい管理者の考えがうかがえた。	介護理念の意識づけが日々行われているが、思いの詰まった事業所理念を職員間で再構築し、今以上のケアの質向上に取り組むことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月外食や月2回のオレンジカフェに参加し地域の方々との交流を図っていましたが、コロナ感染流行の為行っていないが ホームないでの 活動を行っています。	町役場で月に2回実施されていたオレンジカフェに参加できていたが、コロナ禍のため休止中である。再開が待たれる中、現在は家族面会もできるようになり、入居者の生活の活性化の一助となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の施設訪問 体験学習の受け入れを しておりました。また 近隣、消防団 民生委員運営推進会議に働き掛けを行っています。まだまだ 個別の住人には浸透しておらず今後の課題となっております		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っています。行政 近隣 民生委員 消防団団長 御家族に参加頂いておりますがコロナ感染症の為さんかは中止しておりますが、報告書を郵送しております。	感染症対策として集合型の会議ができない状況が続いたが、ようやく落ち着きが見られ、工夫をしたうえで参加を呼び掛けた。家族会からの参加も得られ貴重な意見を聞くことができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議 介護支援専門員会議 運営推進会議等は役場とに連絡を取り 待機状況を報告し 介護保険せいどについても連絡を取り合っています。	オンライン会議が行われているが、意見も言うことができ、助言等もあり、相談等には適切に対応してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や介護事故に繋がらないようにケアの研修会に参加したり、勉強会を設けている。安心 安全にけあに職員全員で取り組んでいます。	施設内に「身体拘束排除宣言」が掲示されている。玄関等施錠は夜間だけにし、日中は開放している。身体拘束委員会を設け、行政とも連絡を取り合っている。特に言葉遣いについて学ぶ機会を作り、職員同士で注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する 研修会に参加し 勉強会を行うとともに利用者様の状態はを、入浴や更衣時等 確認しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について 理解を深めてこの制度の 受容性を理解するように 努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書にもとずいて 詳しく具体的な説明を行っています。質問 不安等に対してその都度 説明を 行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に机をおき 意見箱、面会簿は設置していますが コロナ感染の為面会中止の要請あり管理者 ケアマネージャーが 直接ご家族にご連絡を行い、利用者様のご様子をお伝えしています。	管理者、ケアマネジャーから家族に密な連絡が行われている。その際、意見も聞き、代表者、管理者、職員間で話し合いを行い運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や 申し送り時に 意見発言ができる場を設けています。月に一回の定例会議にて職員からでた意見を提案できる場を設けております	月1回の職員会には代表者も必ず参加して職員からの意見を聞く。提案された意見を取り入れ改善の努力がなされている。意見が言いやすい雰囲気があり職員と代表者の関係は良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者との面談や 個別に意見を聞き働きやすい職場づくり お互いにコミュニケーションを図りながら職場環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染のため各研修会に参加できず、グループホーム内での勉強会を 少しずつですがはじめています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の活動や 同業者との研修会に参加していましたが、電話での意見交換を行いサービスの質の向上を図っております。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望者には、不安に思う事や要望をお聞きする事で良好な関係が構築出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いに共感する姿勢を示しながら本人との聞き取りに要望や意向を確認し包括的軽減に繋げ家族との信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人家族との聞き取り情報から 要望や意思を確認し出来てる事、出来ていない事も含め 理解して頂き ご本人 ご家族の意思決定を支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての敬う心を持ち利用者本位のケアを行い共に生活することで信頼関係を築き 安心 安全に生活を 出来る環境作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の各担職員は、定期的に 陽だより お手紙を 出しております。又は電話にて生活状況等を ご連絡しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方 知人 馴染みの方々の面会を受け入れてたり隣設している デイサービスの利用者様との交流や 美容室等の関係が途切えないように努めています。	隣接のデイサービス利用者と中庭で交流ができていたが、コロナ禍のため顔だけでも見る機会を作っている。馴染みの美容室からは2ヶ月に1回来てもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにて家事援助や、体操 中庭散歩等 利用者様 職員ともに 皆さんで楽しく参加出来る様に時間を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設に転居されたりなど 利用が終了したあとも ご本人様 ご家族の了解を得た上で 情報提供や相談を支援します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の介護支援を提供している中で一人ひとりの言動や行動をみまもることでご本人様が何を望んでいらっしゃるのかを考え その事を職員間で話し合う様にしています。	入居者の担当制をとって日々の状態把握に努めている。言葉で言い表せない入居者は食事の進み具合、睡眠状態、表情、行動などから意向をくみ取り、職員間でも情報を共有し話し合い、ケアの向上に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や御家族からの 情報提供 お話させて頂いたことで 分析を 行い 日常生活の観察をしたうえで状況把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や申し送りノートの 個人記録に必ず目をとうし 朝の申し送りに参加、状態を把握しています。		
	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様からだけでなく 家族や職員からの聞き取りをしてカンファレンスを行う事で ご本人らしいプランに繋げる様にしています定期的な見直しを行い職員全員で 話し合いをして作成しています。	家族からの意見の聞き取り、職員のアセスメントなどを基にカンファレンスを行う。また、月に1回の職員会議でも必ず入居者のモニタリングを行い、意見やアイデアを計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の行動や言葉などを 個人記録、申し送りノートに記入を行い、引継ぎ 職員会議のときに情報を共有して実践や介護計画書の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族からの要望などを学びにコミュニケーションを取り 職員からのきずいた事も話し合いながら その人にあった支援やニーズを考えて 取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での見学やドライブを行う事で気分転換を図り そのことについて 御家族にご連絡をして電話 面会などを 積極的に協力して頂きご本人様が心身ともに安全に楽しく生活を出来る様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は 基本御家族受診で お願いしていますが 都合の付かないさいには相談に応じている。医療連携では 専門医や協力医院の往診で相談や助言を頂いてます。	入居時に嘱託医の説明を行い、主治医移行もあるが、家族の希望で入居前の主治医の継続もある。状態が気になるときは、隣のデイサービスの看護師に相談、状態を看てもらう時もある。嘱託医の往診は定期的に受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護ステーションの方々と24時間体制である。月2回の 健康チェックに訪問して頂き 利用者様一人ひとりにたいして状態を見ていただき アドバイスをもらってケアに活かしており 連携しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはソーシャルワーカーとの 連携を図り ケアマネージャーより情報交換を行っています。ご家族にも その都度細かくご説明を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所、契約時の際、重度化や終末期の指針を家族に説明し同意を得ている。状態に応じて、出来る事、出来ないことを説明しご家族の同意を聞き取りしています。また、医療機関者、御家族との連携をとっています。	入居時に状態変化時の対応の説明は行い了解を得ている。重度化していく状態に合わせ、その都度、家族に「できること、できないこと」の説明を行い、意向を確認して同意書を受けている。訪問看護との連携も図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを 作成しています。常に適切な対応ができるように、定期的に 申し送りを行う中で 実践出来る様に心掛けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域の消防署、消防団の協力を得て避難訓練を行っています。	別棟の2階に避難所があり、居室からウッドデッキを抜け避難できる体制を作っている。消防署、消防団の協力も得られ避難訓練を行っている。代表者が日ごろから地域の行事に参加して関係性を築き、非常時は地域からの応援が得られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の 尊厳を尊重してプライバシーに配慮した声掛けを心掛けております。	特に言葉かけなどに注意を払い、口調が荒いと感じたときは職員間でもお互い注意しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人 ひとりの希望や要望を傾聴して状況に応じて支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人 ひとりの興味ややりたいことを会話の中から引き出し、楽しめるように支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を利用者様に 選んで頂き職員と一緒にコーディネートしています。また、その人らしいお洒落を楽しんで頂けるように支援しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食事は一人ひとり食べやすいように提供しており ミキサー食のかたにも 目でみても美味しそうに見えるように 彩りを考えながら盛り付けを行っています。又食事量のチェックを行う事で、配膳、かたづけをお願いしております。	隣施設の厨房で調理済みの食材を入居者と共に持ってきて盛り付けをいっしょに行う。野菜の皮むきなどできることを手伝ってもらい生活の感覚維持に努めている。食器洗いも共に行う。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量のチェックを行っています。食事や水分を余り摂ることをされない場合 お好み食べ物、飲み物提供しております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に 毎食後声かけを行い磨き残しがないように確認を行い清潔保持に努めています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時トイレの声掛けを 行います。その人の行動や表情でサインを読み取り誘導や介護を行っている。	布パンツから紙パンツに移行する入居者は多いが、トイレでの排泄行為は続けてもらえるようにトイレ誘導に努めている。夜間もトイレ誘導を行い、排泄の自立を維持する支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し、食事の工夫、昼食後コーヒー牛乳提供しております。また、排便コントロールの出来ない方は、主治医に相談して薬の処方にて調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の要望に合わせて 入浴時間を変更する事で、週3回入浴出来る様に支援しています。寝たきり状態の利用者様には定期的に全身清拭を行っています。	週に3回の入浴を提供し、浴槽に入れる入居者は浴槽に入ってもらい、できない部分の介助を行う。浴槽に入れない方はシャワーチェアで入浴支援を行い、身体の保清を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態や要望に合わせて休憩や午睡、臥床が できるように努めています。また夜間不眠の方にはレクリエーションや 散歩 日光浴 体操等、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルしいつでも 確認が出来る様にしています。内服薬が変更になった場合は、職員が利用者様の個別ノートにて 引継ぎの徹底 薬には色分けの 線を引く(朝、昼、夕)ようにしています。服薬時は名前の読み上げと 日付 本人確認を行い 誤薬しないように 支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の出来る事、洗濯物たたみ、洗濯物干し、お茶碗拭きを行い。季節の食材を使い家事援助えお支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画を立てています。今は コロナ感染症のため 毎月 お弁当の日を設けて 食の楽しみを感じて頂いております。利用者様の様子を見て、天気の良い日には1名～2名 交代でドライブへ気分転換をおこなっています。	現在はコロナ禍のため計画遂行が無理になっているが、遠足など季節に応じ計画を立てている。落ち着きが出てきたら実施していきたいという意気込みは保持できている。協力できる家族にも声かけを行うようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が いるものが 有りましたら 職員を通じてご家族様に依頼をしまして、準備をして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が ご家族にご連絡を 望まれていたときは職員が電話の 取次を行っています。また、月に一度 担当者より 生活状況、身体の様子を報告しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じるように 四季におおじた 飾り付けをしています。空調管理にも気を配り、各居室に湿度計、温度計を設置しており温度調整に注意を払っていますトイレ、浴室、にはカーテンを使用し、プライバシー保護に配慮しております。	共用空間は明るく、日当たりも良好なつくりになっている。また、コミュニケーションを図ることができるように職員が間に入り、居心地のよい空間づくりを心がけている。廊下には手作りのクッション、作品などが飾られ季節感なども感じられる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファにて テレビを鑑賞されたり、他の利用者様との 楽しいお話ができる環境づくりに心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族にご協力を得て以前から家庭で使われていた物や ご本人様使い慣れたもの お好みの物をしようし安心して生活が送れるように環境づくりを行っている。御家族 子供 孫の写真 お誕生日の色紙等を飾り 気持ち良く過ごせるよう支援して行きます	入居前に使っていたものなどを持ち込み、その人らしい居室のしつらえができている。入り口には個々人の名前の表示があり、自身の部屋としての認識もできるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様個人の居室がわかるように、出入りにのれんを掲げている。居室内では自己の作品や四季の壁紙が 飾ってあり生活が楽しく過ごして頂けるように工夫しております。		